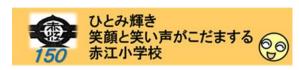
開校 150 年にちなんだ記事を紹介するコーナーの第2回は、「悲願の学校統合」と「校歌の制定」で す。(「赤江教育百年誌」を参考にしています)

「悲願の統合、一村一校へ(その1)」

「赤江教育百年誌」に、「幕末にはかなりの寺子屋が あった。市誌によると、赤江は安来と並んで十四の寺子



屋が数えられる。・・・赤江にはかなりの寺子屋があり、多くの子どもたちが勉学に励んだことは事実 であろう。|とあります。教育熱心な土地柄であったことがうかがえます。

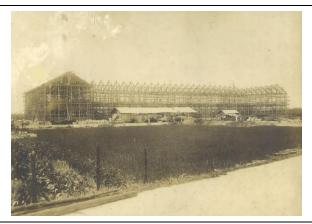


ラブ前に建っています)

明治6年5月23日に法雲寺本堂に東赤江、西赤江、上坂田、中津の 四村連合の小学校が開設されました。当時は、他にも小学校が点在し、 しばらくは別々に教育が行われていました。明治22年に赤江村が誕生 しますが、学校の変遷もそれに軌を一にして小さい小学校が次第に統合 され、やがて、東赤江、今津の2校で地域に即した着実な教育実践が進 められていたようです。

そして、昭和6年、「悲願の統合」となる赤江村尋常小学校校舎が現 在地に建てられ、ついに一村一校となりました。「17名の教員と600名 を超す生徒で新しい校舎への移転を完了したのは、昭和6年11月9日」 と記録にあります。この時に建てられた木造校舎は、「赤江村国民学校」 「赤江村立赤江小学校」「安来市立赤江小学校」と名称を変えながら、

現在の鉄筋の校舎が落成した昭和52年まで半世紀にわたり学び舎として使用されました。





昭和6年に現在の地に建てられた悲願の統一小学校。木造校舎は昭和52年まで使用されました。





「校歌の制定」~統合から4年後のこと

昭和 10 年 6 月、かねてより申請中であった校歌が文部省に認可され、松江中学に在職中の木島俊太郎氏の作詞と、島根師範の下野米氏の作曲による校歌が制定されました。多くの小学校では、戦後、歌詞などの関係で校歌を制定し直していますが、赤江では、一貫して「誠の道」が歌い継がれています。

東昇降口前の築山にある校歌碑は、開校百年ならびに統合四十年を記念し、昭和46年2月に建立されました。作詞者の木島俊太郎氏の直筆を刻したものです。校長室の書架には、この碑の裏面の下書きと思われるものがありました。開校百年を祝う当時の皆様の熱意が伝わってくる感じがしました。



「みのりゆたけき千町田の・・・誠の道を一筋に」という校歌三節は、児童職員保護者の 総意により二十一世紀に生きる赤江小学校児 童の信条にしたいと建立されたものです。

「千町田」~昭和7年に発行された国語の教科書に登場する風景

昭和7年に文部省から「サイタ サイタ サクラガ サイタ」ではじまる国語読本が発行され、国定教科書として全国の小学校で使用されました。「サクラ読本」と呼ばれ「日本で初めての国語の教科書」と讃えられることもあるこの教科書を編集したのは、安来市(広瀬町)出身の井上赳先生です。この国語読本の中にある「山ノ上」には「ツヅク タンボノ ソノ サキ ハ、ヒロイ、ヒロイ ウミダッタ。・・・」という文章があります。この風景は、広瀬の山から「千町田」を眺めたものではないかといわれています。当時全国の小学生が、赤江が登場するこの教材で国語を学んでいたと思うと、誇らしい気持ちになります。







